

会議名	港区放課 G0→クラブしろかね運営事業候補者選考委員会（放課 G0→クラブしろかね業務委託） 第3回事業候補者選考委員会	
開催日時	令和3年11月8日（月曜日）午後1時から午後2時45分まで	
開催場所	芝浦港南地区総合支所 103 会議室	
委員	出席者 6名 阿部委員長、田中委員、秋山委員 山本高輪地区総合支所長（副委員長）、白井子ども家庭課長（委員）、 吉野白金小学校長（委員） 欠席者 0名	
事務局	高輪地区総合支所管理課長、管理課施設運営担当	
会議次第	1 開会 2 第二次審査実施概要について 3 事業候補者によるプレゼンテーション及びヒアリングの実施 （1）事業者A （2）事業者C 4 議題審議 第二次審査結果及び事業候補者の選定について 5 その他 6 閉会	
配付資料	次第 資料1 第二次審査実施概要 資料2 第二次審査採点表（2事業者分） 資料3 第二次審査結果・総合結果表（※採点終了後、机上配布） 資料4 第2回選考委員会議事録(案) 参考資料 第一次審査集計結果	
会議の内容		
委員長	【1 開会】 （委員長より開会の挨拶）	
委員長 事務局	【2 第二次審査実施概要について】 本日の第二次審査の概要について事務局から説明してください。 （資料1により説明）	

	<p>【3 事業候補者によるプレゼンテーション及びヒアリングの実施】</p> <p>(1) 事業者A</p>
委員長 事業者A	<p>それでは事業者Aのプレゼンテーションを始めます。</p> <p>プレゼンテーション (質疑)</p>
A委員	<p>施設長候補者の経験の中で、児童からの相談を受ける際に相談のしやすさとして場所、時間、仕組み等を工夫してきた点がありますか。</p>
事業者A	<p>児童からの相談をしやすい環境として、まずは、自身が指導者という立場ではなく子どもと同じ目線に立ち、子どもが相談しやすい状況を作ります。他の児童のいない別室で、対面で、必ずその子の言いたいことをまず聞き、それから私たちの考えを伝え、それを繰り返しながら話を進めていきます。</p>
A委員 事業者A	<p>いまご説明いただいたことは、どのように職員間で共有されていますか。</p> <p>運営が始まる前に必ず30分ほどミーティングをしています。気になる児童についても、そのときにみんなで話し合い、対応方針については施設長が主導をとって、指導の方向性や対応方法を伝えています。</p>
A委員	<p>組織的に職員の間での悩みや相談事などを受け止め、解消する仕組みや工夫はありますか。</p>
事業者A	<p>相談を受けた際には、まずは相談者の話をじっくり聞き、集団の中でどのように解決していけばいいのか、一緒に考えていきます。ミーティングだけではなく、業務終了後も少し残り、個人的な話をするなど、コミュニケーションを深めている状態です。</p>
B委員	<p>健全育成に繋がるような、異年齢交流の取組や交流の機会について、計画がありましたら教えてください。</p>
事業者A	<p>異年齢交流としては、スポーツ指導員を中心に、遊びながら学年の違う子どもたちと交流する「DEKITA」というスポーツプログラムを実施しています。</p> <p>また、年齢が異なる子どもたちが会議に参加して、それぞれの立場で建設的な意見を交換し、クラブ運営やルール作りに反映させていく中で、異年齢間の交流が深まっていく機会となっている子供会議の実施など、高学年と低学年と一緒に交流できるような機会を設けています。</p>
事業者A	<p>「DEKITA」のスポーツプログラムではスポーツ指導員が来ます。その者たちを中心に、遊びながら学年の違う子どもたちと交流していく集団遊びの機会を設けています。また、子供会議については、年齢が異なる子どもたちが会議に参加して、それぞれの立場で建設的な意見を交換し、クラブ運営やルール作りに反映させていく中で、異年齢間の交流が深まっていく機会となっていますので、今後も提案していきたいと思っています。</p>
C委員	<p>おやつについて、単に空腹を満たす以上の大切なものと捉えている説明がありました。コロナ禍であっても子どもたちが友達と一緒に楽しく食べられるような配慮というのは、具体的にどのようなことですか。</p>

事業者A	<p>食事中の会話は難しいと思いますが、食べ終わった後、マスクをつけてから話をして、食べるのが楽しかった、みんなと一緒に食べられた、という経験を作りたいと考えております。また、パーテーションに間違い探しなどの絵やイラストを貼り、子どもたちがおやつを楽しく過ごせるような工夫をしております。</p>
C委員	<p>パーテーションに貼ってあるイラストをもとに、食べ終わった後、話をするができるといった工夫なののでしょうか。それとも単にそれを見ながら遊んでいるということなののでしょうか。</p>
事業者A	<p>おやつ時間も楽しみながら、その後マスクをした状態でも会話が弾むような工夫となっております。</p>
C委員	<p>おやつを食べ終わってもすぐ席を離れるのではなく、しばらく座ったまま会話をする時間を作っているということでしょうか。</p>
事業者A	<p>食のマナーを学ぶのが食育だと思っておりますので、きちんと全員で挨拶をし、早く食べ終わってしまった子は席に戻る、全員でごちそうさまをするまでの時間がある、という認識です。</p>
D委員	<p>職員体制について、提案書には8名と提案されていますが、その根拠を教えてください。また、施設長にお聞きしますが、非常勤職員への指導と常勤職員への指導について、違いや配慮しなければならない点について教えてください。</p>
事業者A	<p>職員体制に関しては、弊社では学童と放課GO→の両方に責任者を置き、その上に、統括責任者を配置する提案をしています。白金小学校は、4階での運営になりますが、体育館が地下1階、校庭が1階にあり、運営上子どもが分散することが想定されます。それを踏まえ、この人数での職員体制としています。</p>
事業者A	<p>常勤職員、非常勤職員の教育についてですが、常勤職員に関しては、施設長と同じような考え方を持っていただけるよう、会社の研修を含めて指導します。非常勤職員には、考え方・子どもに対する接し方は同じであること、子どもたちからすれば常勤職員も非常勤職員も違いは無いため考え方を統一する必要があることをお伝えしています。</p>
E委員	<p>帰る時の安全確保について、見送りは具体的にどこまで行きますか。</p>
事業者A	<p>具体的な場所としては、現在運営されている事業者様と同様に、白金小学校から、近くのコンビニの前、大通りの方にある歩道橋付近、横断歩道を渡った先の3地点です。</p>
E委員	<p>学校職員との情報交換について、どのような時間で、どのような方法による情報交換を考えていますか。</p>
事業者A	<p>まず先生にお時間いただけるかということを確認します。先生のお時間が取れないときには、運営中に先生が訪ねてきた時や、要支援の児童を運営場所まで連れてくる時にお話を伺ったりします。副校長先生には、毎朝必ずご</p>

E 委員	挨拶に伺い、前日の出来事などをお伝えしています。
事業者 A	教員とは、今の説明のやり方で、実際にコミュニケーションが取れているのでしょうか。自然発生的なもののように聞こえるのですが。
E 委員	現在、私どもは家庭科室を使用して運営をしております。そこに家庭科の先生がいらっしゃるのので、その先生からいろんな情報をお伺いし、また、児童についてご相談を申し上げることがあります。そこから担任の先生のところへ話に行こうかという形になり、担任の先生を訪ねて職員室に参ります。
事業者 A	学校との連携について、白金小学校の特色と連携することについて何かお考えですか。
F 委員	白金小学校では、プログラミングの推進や、子どもの体力向上、国際人としての資質の向上を目指されていると思います。弊社ではプログラミング教室の実施や、学習支援用タブレットの導入、体力向上のための「DEKITA」プログラムの実施、海外の子どもとのオンライン上の交流の機会を設けています。学校が目標とされていることに対して、共に競争していくような形が望ましいと思っています。
事業者 A	スポーツと遊びのプログラムの中で、スポーツと遊びのスペシャリスト集団について記述がありますが、これはどのような集団ですか。
F 委員	男女合計で 10 名おり、ほぼ全員が体育大学卒業で、体育の教員の免許を持っています。0 歳から高校生まで対応できる運動、集団あそびを展開できるトレーニングを積んだ者が各事業所を巡回しています。
事業者 A	そのプログラムで、子どもたちのあそびは変わってきますか。
F 委員	巡回指導員が来るのを心待ちにしてくれるようになりました。体を動かすことの楽しみと同時に、異年齢で集まって集団あそびをすることを味わっていただきたいという思いで継続しています。
事業者 A	場所について、雨天時など当初の計画から変更が必要なこともあると思いますが。
F 委員	例えば当初計画していたけれども、雨天になってしまい外で遊べないときには、クラブ室の中で展開できるようなプログラムを実施します。場所は選ばずにプログラムを展開できる集団となっています。
事業者 A	施設長になってよかったと思える瞬間はどんな時ですか。
F 委員	自分の思い描く施設が実現できた時が、1 番やりがいを感じる時であり、うれしかった時です。
事業者 A	簡単に実現できないと思いますが、今までどのような内容で良かったと思われたのでしょうか。
F 委員	子どもの様子、職員間の会話、子どもと職員の間会話から、子どもの喜びや職員の感動を感じられた時にうれしさを感じます。
委員長	以上で質疑を終わります。 (各委員、事業者 A の採点)

<p>委員長 事業者C</p>	<p>(2) 事業者C それでは事業者Cのプレゼンテーションを始めます。 プレゼンテーション (質疑)</p>
<p>A委員 事業者C</p>	<p>プレゼンテーション用紙に「当団体独自の運動の実施により児童の体幹やバランスを強化する」とありますが、これについてご説明をお願い致します。 当団体の親会社が運営している会社の中にフィットネスクラブを運営している会社があります。そのフィットネスクラブで実施している、子どもの体幹の向上を目的とした体操をベースに、運動前・遊びの前の準備体操とイベントで実施するけんけんば体操という2つの体操を作成しました。</p>
<p>A委員 事業者C</p>	<p>施設長候補者の方にお聞きします。職員同士の連携や、相談事や悩み事を聞き取るシステム、時間や場所等について、工夫してきた点はありますか。 1日に3回、職員ミーティングの時間を設けています。午前中に常勤の職員で1回、午後に常勤と非常勤職員全体でのミーティングを始めと終わりの2回、行っています。全職員が揃ったミーティングでは、必ず全職員から一言発言してもらうように取り組んでいます。その際、職員の様子が気になった時には、個別での聞き取りを行います。また、日々のコミュニケーションでは挨拶に一言加えることを心がけ、職員の悩みや気づき等を迅速に発見し、解決に繋げています。</p>
<p>A委員 事業者C</p>	<p>その方法で、職員の方は満足していますか。 私が忙しい時には気を使わせてしまっていると感じます。そのため自分から積極的に声をかけることや、職員間で共有する連絡ノートを用いた文字でのコミュニケーションを導入し、不満の解消に繋がっていると実感しています。</p>
<p>B委員 事業者C</p>	<p>保育園や幼稚園との連携の機会は考えていますか。 学童クラブは低学年の利用が多い施設であるため、入学時の児童への指導に関する情報共有の観点から、保育園や幼稚園との連携が非常に重要だと考えています。行事やイベント等に互いが行き来できる関係性を築きたいと考えています。</p>
<p>B委員</p>	<p>越境通学する児童に対するバス、電車使用に対する交通安全指導について力を入れたプログラムがあると提案書に記載がありますが、これについてご説明をお願いします。</p>
<p>事業者C</p>	<p>白金小学校の特色として、バスで通う児童が多いと聞いていますので、基本的な交通ルールについての周知・交通安全教室等の実施に加え、電車・バスに乗る際に気を付けるべきルール等の安全指導を取り入れています。</p>
<p>C委員</p>	<p>施設長候補者にお聞きします。関係各所との連携ということで、様々な施設との積極的な交流を図るとお話しがりましたが、現在コロナ禍で交流事業の実施が難しい状況にあると思います。そのような状況でも工夫をして何</p>

	かできた経験はありますか。
事業者C	近隣の学童クラブと交流検討会を設けアイデアを出し合っています。現在は、オンラインで将棋等の対戦系の遊戯を実施しコミュニケーションを図る、という方法に可能性を感じ、実現に向けて行動しています。
C委員	コロナ禍で、普段の遊びを実現するための工夫はどのようなものがありますか。
事業者C	子どもたちの関係性が希薄にならないように、コロナ禍でもできる遊びを学童施設間で共有するシステムを、本部が作りました。その中で、自施設に合ったものを取り入れ実践しました。
D委員	施設長にお聞きします。常勤職員と非常勤職員への指導・育成方針の違いや指導の際に心がけていることを教えてください。
事業者C	常勤職員は、施設を運営していく上での基軸となりますので、まず常勤職員間で施設としての運営方針を共通認識としてすり合わせ、その考え方を他の非常勤職員に伝えています。
D委員	新型コロナウイルス感染症が拡大してきた際に、施設長として、利用者・職員からの不安に対してどのように対応しましたか。
事業者C	利用者に対しては、保護者の立場に寄り添い、施設として感染症対策にどのように取り組んでいるか、という点や、施設の様子を、お便りや問い合わせがあった際の説明で真摯にお伝えし、不安を少しでも払拭できるように心がけました。
	職員に対してですが、出勤への不安から精神的に不安定になる職員もいました。その場合には、日々のコミュニケーションを綿密にとりつつ、同時に本部と相談し、精神状態が改善されるまで休みを取れる体制を整えました。
E委員	学校との連携について、担任教員とのコミュニケーションをとる際には、どの時間を使って、どのように行いますか。
事業者C	緊急なことを除いては、最初に書面を用いてやりとりし、それに関することとお時間のある時にお話します。
F委員	年間事業計画を拝見すると、ランチクッキング等の様々な計画が記載されていますが、異年齢交流の観点からはどのように実施されていますか。
事業者C	特に学年制限はせず、様々な学年間で実施しています。
F委員	将棋やヨガ等について、今の児童は興味を持っていますか。
事業者C	ヨガはまだ実施できていませんが、将棋に対しては非常に興味・関心が高く、覚えてから上達するまで、著しい成長を感じます。
F委員	施設長候補者に伺います。職員へ指導し、改善を求めるといった経験をされたことはありますか。
事業者C	こちらの指導に対して改善する傾向が見られない場合には、ここだけは守って欲しいという施設としてのボーダーラインを示し、逸脱しないよう段階的に指導をするように努めています。改善された場合には、感謝の気持ちを

<p>F 委員 事業者 C F 委員 事業者 C F 委員 事業者 C</p>	<p>伝えるようにするとより効果が見られました。 現在の施設ではあなたより年齢が上の職員はどのくらいいますか。 現在の施設では11人中3名です。 やりにくくないですか。 人格的に素晴らしい方なので、やりにくさは特に感じておりません。 意見が必ず合うとは限りませんよね。 意見が合わず注意しなければいけない時は、先ほどの指針に基づき根気強くお伝えすることを心掛けています。</p>
<p>委員長</p>	<p>以上で質疑を終わります。 (各委員、事業者Cの採点) (事務局で集計)</p>
<p>委員長 事務局</p>	<p>【4 議題 第二次審査結果及び事業候補者の選定について】 採点集計の結果について事務局から説明をお願いします。 第二次審査の事業者Aの合計得点は392点、事業者Cの合計得点は456点です。第一次審査・加点項目・第二次審査の合計得点は、事業者Aは1293点、事業者Cは1373点です。</p>
<p>委員長 E 委員</p>	<p>各委員から講評をお願いします。 両事業者ともプレゼンテーションを聞いた限りでは大きな差はありませんでした。実際に差がついた点は、学校との対応連携についてです。事業者Cの方が学校の実情を理解していると思いました。事業者Aの対応はやや画一的に感じ少し差を見つけました。</p>
<p>A 委員</p>	<p>事業者Aについてです。質問に対して、施設長候補者が具体的に答えを出せており、それは施設長候補者自身の様々な経験の賜物だと思いました。事業者としての提案は全て平均的なものですが、施設長候補者の資質は高く評価できました。事業者Cは、施設長候補者の評価も高く、また施設長と事業者のバックアップの組み合わせが非常に良い形になると考え、高く評価しました。</p>
<p>B 委員</p>	<p>事業者Aですが、プレゼンテーションは、安全面等に関して提案書の不足部分を補えているものであり高く評価できました。ただ、質疑応答が一部表面的な理解に留まっていると感じました。特に異年齢交流の捉え方について、年齢の異なる子がただ一緒にいればいい、という理解のみで、何のために異年齢交流をするのか、ということについて、職員の理解が不十分であると感じました。事業者Cの方は、保育園・幼稚園との連携等について、提案書の中で書かれていなかった部分についても、その必要性まで理解した具体的な回答があったため、提案書の実現性が高いと判断し、高く評価しました。</p>
<p>C 委員</p>	<p>事業者Aは、施設長候補者の説明の様子から本部の関わりがあまり感じら</p>

	<p>れず、本部の支援体制はしっかりしているが実際の現場にどこまで関わっているのかが見えなかったため、施設長候補者と本部との関係性にやや不安を感じました。事業者Cは、様々な点で本部の支援体制が充実しており、またそれが現場で生かしています。また、コロナ禍で制約が多い中での遊び方について本部で情報共有体制を整えており、現場を本部が支えるための体制が確立されていて、安定感があるため高く評価しました。</p>
D委員	<p>施設長候補者の考え方・能力と総合評価で差をつけています。事業者Cの方を高く評価しています。事業者Aについては、法人全体としての意欲や施設長候補者の経験も豊富で自信を持っていることは感じられましたが、質疑への対応で施設長と法人との組み合わせにやや温度差を感じました。事業者Cについては、対応力のある施設長と、それをバックアップする法人という組み合わせに安定感があると感じたため、事業者Cの方を高く評価しました。</p>
F委員	<p>施設長については差がつけ難いです。事業者Aのプレゼンテーションは、会社の広報色が強いプレゼンをしており、施設長としての仕事にかける役割や意識等がほとんど出ていませんでした。スポーツと遊びのプログラムは高く評価しました。事業者Cは子どもたちとの関係があまり見えず、どういところで子どもが生き生きと過ごしていくのか、ということがわかりにくかったです。また、港区の地域性を踏まえた創造性の部分が少し弱いと感じました。両事業者ともあまり差はついていません。</p>
委員長	<p>それでは、各委員の講評や意見交換を踏まえ、本委員会として、事業者Cを、港区放課 G0→クラブしろかねの事業候補者として選定してよろしいでしょうか。</p>
全委員	<p>(異議なし)</p>
事務局	<p>【5 その他】 なし</p>
委員長	<p>【6 閉会】 (閉会の挨拶)</p>